



観

NOH
能

昨年8月、梅若能楽学院会館(東中野2-6-14)で能と和菓子作りを体験しました。

—— 能ってどんなものですか？

能は鼓や笛の囃子に合わせて、舞台上の人物が語り舞う演劇。約700年続く歴史の中で独自の様式を磨き上げてきた日本の代表的な古典芸能です。

「子どもには難しい」と思われがちですが、誰でも観に行けて習えるもの。そして、子どもだからこそ楽しめるものでもあります。それは能が想像力を働かせて楽しむものだからなんです。能はセリフや舞が抽象的です。情報量が少ない分、観客が自由に想像して楽しめます。能面は無表情のように見えますが、観る人によってどんな表情にも感じ取れるんです。純粋で豊かな想像力を持っている子どもたちにこそ、能に触れてほしいと思っています。

—— 大切にしていることは？

自由な感覚で触れる体験を大切にしています。正解を求めて舞台を観る必要はありません。立ち振る舞いや音の迫力から、どんな場面を想像してもいいんです。見えない部分を想像することで、目に見えない部分まで考える力を育むことができます。

また、自分が感じたことを周りの人と語り合うことも大切にしています。そうすることで、自分の意見はもちろん、他人の意見を尊重できるように。ぜひ能を通して想像することの楽しさを感じてほしいです。

Interview

梅若 幸子さん

中野区在住。中野区名誉区民である人間国宝の能楽師、梅若実桜雪氏の長女。公演の企画制作や学校・企業等での講演を行う



書

WRITING
ライティング

昨年11月、プロのライターから文章の書き方を学ぶ全4回の講座を受講。区内の文化・芸術活動取材した冊子を作りました。



完成した冊子「MINT」は
区画でご覧になれます

—— 文章を書く時に大切なことは？

感じたことをそのまま書くことが大切です。いざ文章を書こうとすると、何から書き出せばいいか悩みますよね。それは「いい文章を書こう」と意気込むからなんです。でも、楽しかったことを友達に話すように書いてみると、自然とその時の感情や言葉が出てきます。そして繰り返し書くことで、自分なりの文章の書き方を見つけることができるんです。

本を読むことも大切です。私も子どもの頃に小説や漫画をたくさん読みました。今でも毎月10冊以上は読むように心がけています。本を読むことで語彙力が身に付き、新たな発想も生まれます。

—— 文章を書くことの魅力は？

表現力が身に付きます。書くことが得意な子ども、何も考えていないわけではありません。考えを文章にすることに慣れると、自分の気持ちも整理しやすくなります。また、文章を読んでもらうことで、達成感を得られます。今回作成した冊子には、子どもたちの文章をほとんどそのまま載せています。大人には思いつかない質問やしっかり受け答えをする姿には驚かされましたね。

子どもたちには、これからの人生で文章を書く機会がたくさんあります。「何を・どの順序で・どのように伝えるか」、読む人のことを考えて書く経験が多いほど文章を書く力が身に付き、あらゆる場面で役立つと思います。

Interview

中村 未来さん

中野区在住。学生時代からライターとして活動し、雑誌や書籍、舞台の脚本、漫画の原作などさまざまなジャンルの執筆を行う



子どもの豊かな体験を応援しませんか
中野区子ども・若者文化芸術振興基金

文化振興・多文化共生推進係/8階 ☎(3228)8863 FAX(3228)5456

寄付申込書(区画からダウンロード可)を、郵送または✉bunka-tabunka@city.tokyo-nakano.lg.jpで、文化振興・多文化共生推進係へ。

☆本基金への寄付は寄付金控除の対象です



▲基金を活用して、約200人の方々とアトリエDONGURIの天井にペンキを塗りました

文化・芸術を鑑賞・体験できる事業を募集します
中野区子ども育成文化・芸術事業

認定を受けた事業は、区内の文化施設や区役所1階の利用料金が減額されます。

事前相談期限 4月11日(金)

☆事前相談は必須です。文化振興・多文化共生推進係へ電話で相談日の予約を



▲今年度の認定事業。事業の様子は区画でご覧になれます



▲区画